

## 舞鶴市子育て交流施設「あそびあむ」について

## I. 「あそびあむ」の現状

## 【施設の目的】

子どもと多様な世代の大人が共に遊びを体験する機会を創出するとともに、子育てに関する相談、情報の発信等を実施することにより、子どもの健やかな成長に資する施設として設置

## 【実績】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開設数	週 6 日	週 6 日	週 6 日	週 6 日	週 6 日
利用者数	56,249 人	71,550 人	72,224 人	70,919 人	62,250 人
平 日	138 人/日	170 人/日	167 人/日	158 人/日	138 人/日
土日祝日	304 人/日	341 人/日	353 人/日	354 人/日	306 人/日
事業費	18,320 千円	20,430 千円	21,955 千円	24,800 千円	23,750 千円

## 【主な事業】

- ・あそびあむ事業（月ごとにあそびのプログラム入れ替え）
- ・子育て支援情報の提供・子育て相談の実施（ピアサポーター配置）
- ・遊びの普及・啓発事業（乳児・父親・小学生プログラム、ニュースレター）
- ・定期企画事業（春・夏）
- ・市民参画事業（舞鶴あそび隊との協働）
- ・多世代交流事業（多世代のボランティア参加他）

## 【あそびのキーワード】

あそびあむは、あそびをテーマに子どもと大人が一緒にあそぶ、場所・ところ

- ・身近なことがおもしろい
- ・上手下手ではない
- ・無駄が楽しい
- ・大人が楽しいと子どもはうれしい
- ・遊んだ思い出を持って帰る

## Ⅱ. 第2期 舞鶴市子ども・子育て支援の方向性

<～夢・未来・希望輝く「舞鶴っ子」育成プランより>

### 施策1. 親育ち・多世代にわたる子育てエンパワーメントの向上

#### ■子どもの豊かな育ちの支援

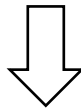
五感を使った豊かなあそびの提供により、好奇心・主体性・創造性・社会性・身体能力を育む

#### ■家庭の子育て力の向上

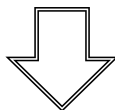
保護者が子育て支援の第1義的責任を有することを前提としながら、子育て不安を軽減したり、乳幼児期に大切にしたい親子の関わりや、子どもの成長について学べる機会を提供する

#### ■共生型の子育て支援 ～“孤育て”から“子育て”へ

社会におけるあらゆる担い手が子ども・子育て支援の重要性を認識し、それぞれの立場で役割を担う機会を創出する



生きる力を持った子どもの育成と親子・家族の絆づくりの在り方を、地域社会全体で考え、実践する機会の創出



「あそびあむ」を核とした  
子育て支援の市域全体、まちへの展開

※ 世代を繋ぐ循環型多世代交流図 (別添参考1を参照)

### Ⅲ. 子育て支援のリーディングプロジェクト

まちを「あそび」でつなぐ、「(仮称) どこでもあそびあむシリーズ」の試行実施

○「あそびあむ」がこれまで取り組んできた活動を、施設内のみで完結するのではなく、地域全体に広げ、「あそびあふれる舞鶴市」として、舞鶴の地域資源を活かした親と子のあそびの機会を創出する。

○新たなチーム（学識経験者をはじめ、あそびあむに関わり深い団体やその役割に理解ある団体で構成（仮称）あそびデザインクラブ）を立ち上げ、「どこでもあそびあむシリーズ」を企画、実施。

○令和2年度は試行的位置づけとし、4回程度実施する。

※（仮称）どこでもあそびあむシリーズ（イメージ図）（別添参考2を参照）

#### IV. 「あそびあむ」の持続可能な運営

過年度の度重なる災害や、市税収入の減少などに加え、コロナウィルスによる企業の業績悪化による税収減が見込まれる中、市の財政運営はさらに厳しい状況が続くものと考えられる。

「あそびあむ」が、魅力ある施設として、維持継続していくために、現在、次の取り組みを模索。

##### ① 施設利用の有料化

##### ② ネーミングライツ

市のスポーツや文化施設、道路、トイレなどの公共施設に名称を付与する権利  
(例) 京セラドーム大阪、ロームシアター京都

##### ③ その他の財源確保

- ・企業からの協賛金

- ・企業版ふるさと納税

地方自治体の取り組みに賛同し、寄付した企業の税負担額の軽減